

# 29L-pm11

茜草根より単離した新規 RA 二量体化合物の構造

○土屋 堯之<sup>1</sup>, 一柳 幸生<sup>1</sup>, 吉田 亜耶香<sup>1</sup>, 深谷 晴彦<sup>1</sup>, 竹谷 孝一<sup>1</sup>, 川原 信夫<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>東京薬大薬, <sup>2</sup>基盤研・薬植セ)

【目的】茜草根 (*Rubia cordifolia* の根) より, 抗腫瘍性環状ペプチド RA-VII の新規類縁体を探索する.

【方法および結果】茜草根のメタノールエキスをHP-20, シリカゲル, 活性炭カラム, ODS-HPLC 等により分離したところ, deoxybouvardin (RA-V), RA-VII 等の既知ペプチドとともに, 新規RA系化合物 **1** を単離した. 化合物 **1** はマスペクトルよりRA系ペプチドの二量体構造を有することが示唆された. 二次元 NMR スペクトル (<sup>1</sup>H-<sup>1</sup>H COSY, HSQC, HMBC, NOESY) の解析により, 平面構造を推定した. 立体配置については現在検討中である.

【考察】演者らのグループでは, 既に同植物より deoxybouvardin の二量体アナログである RA-dimer A を単離構造決定している. 化合物 **1** に与えられる推定平面構造式は, deoxybouvardin 型ユニットと allo-RA-V 型ユニットが結合したものに相当する. 化合物 **1** はその生合成において, 二量体化がどの段階で進行しているのか興味深い.

